

宮城県教育委員会が打ち出した「高校将来構想」は、多くの波紋をよんでいる。今回の県立高校の再編案で注目を集めたのは、「男女共学化の推進」だ。別学の比率が高い宮城県では、さまざまところで議論が盛り上がりつつある。今回、『仙台っこ』では、歴史的背景とその問題点、魅力ある高校づくりについて「私はこう思う」、宮城県内の現役高校生の座談会で、魅力ある理想の高校の姿をさぐった。

魅力的な理想の高校ってなに？

高校再編をめぐって

平成12年10月、宮城県教育委員会は「県立高校将来構想」（中間案）を発表。ピークの平成元年には35、137名だった宮城県内の中学卒業者数は年々減少し、平成12年には29、601名、さらに10年後の平成22年には23、213名に減る。それに伴って当然高校生の数も減少する。

宮城県内には現在82の全日制高校があり、そのうち22が別学校。高校数を減らして少子化に対応し、合わせて魅力ある学校をつくるというのが中間案の骨子だ。高校再編を前期と後期に分け、前期の平成13年度から17年度の5年間で角田高校と角田女子高、栗原農業高校と若柳高校、築館高校と築館女子高、気仙沼高校と県が浦高校を統合。さらに矢本高校、石巻高校、石巻女子高の定時制を矢本高校に1本化する。

男女共学が別学かの議論の底にあるのは、生徒数の大幅減少にどう対処するかだ。「生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくり」を打ち出したものの、その実

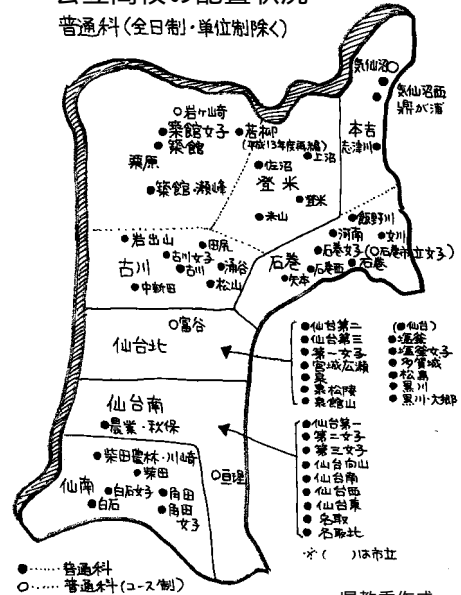
現に向けてはまだまだ問題が噴出しそうだ。

宮城県の中等教育における男女別学の歴史は長い。宮城県尋常中学校（仙台一高）の創立が明治25年。同30年には仙台市立高等女学校（宮城一女高）が設立されたが、中学校と高等女学校では教えられる教科の内容が段違いだった。「一高、二高、三高と、一女、二女、三女では校庭の広さが全く違う。気付いていましたか」と東北大学教育学部の水原克敏先生に言われて、啞然。なるほど女子教育は良妻賢母を作る程度でいい、という発想がこんなところにも表れている。この後石巻、白石、角田など男子の中学校に一步遅れる形で県立高等女学校が創設されたが、中学校と高等女学校ではどれもみな教授内容の違いが歴然としていた。

敗戦で占領軍がどつと入ってくると、教育制度も大幅に変わった。昭和22年の教育基本法で、男女共学、機会均等、六三三制が強行される。共学は男女の特性を失わせるとか、女子を男子とともに学ばせると男子の学力が落ちるとか、強力な反対論が続

公立高校の配置状況

普通科(全日制・単位制除く)



県教委作成

出。このとき共学に踏み切った地方は多かつたが、宮城県では根強い反対運動が展開される。宮城県第三女子高等学校は県内初の共学制を実施したが2年で廃止。占領軍が去ると他地方でも従来の別学に戻ったところが少なくなかった。以後宮城県では別学校はそのまま存続。昭和40年代のベビーブーム以降にできた公立校は共学制であるものの、後に大きな問題を残した。

高校受験が激化し、学校間格差が大きくなると、入試制度の見直しが行われた。昭和42年には高校入試教科を9科目から5科目に減らし、同51年には仙台学区を南北に2分割。共学制を取り入れるべきだという議論も出たが「現時点においては県民の多くは男女別学の存在を是認しているのが実状であると考えられます」(昭和51年高等学校入学者選抜審議会の結果を受けた県教育庁指導課答弁)として見送り。

現在は宮城県が群馬県を抜いて別学率日本一。少子化で3割の生徒が経る。別学が共学かの教育理念を確立するより前に、過

疎と生徒数減少という具体的問題が迫ってきた。

「戦後発足した高校の3分の1は県立ではなく町立としてスタートしている。ここに住んでいても青少年に公教育を保障しようという地域の人々の思いの具体化といえます。生徒減少という理由で統廃合していいのでしょうか」と宮城県高等学校教職員組合執行委員長・出浦秀隆さん。県内市町村の相当数の議会が高校統廃合見直し決議を採択した。他方、県立高校将来構想有識者会議は「高校進学率の向上に伴う量的拡大の時代は終え、多様化への対応を中心とした質的充実の方向に向かっている」として、高校再編の積極的推進意見を県教委に提出している。



公立高校では、両性の平等や教育の機会均等が、男女共学という形でも保障されるべきです。しかし現在、県教委が

共学化を高校統廃合推進の名目に使っていることは問題です。その意図は、10月20日に発表された「将来構想中間案」で具体的に共学化が示された学校は、統廃合が予定される学校だけであることから明らかです。男女共学化の問題は、統廃合の問題とは峻別して、すべての生徒の人的成長を保障するという観点から、生徒・父母・教職員・地域がオープンな形で充分論じ合い、合意形成しながら進めてゆかなければなりません。

(宮城県高等学校教職員組合書記長・伊藤弘志さん)

魅力的な高校ってなに？



おとなはいろいろやってるみたいだけど、高校生の声も聞いてほしいな。自分たちで考える理想の高校ってなに？語ってみようよ。

出席者

相澤雄太（仙台一高） 悠希（仙台一高）
樋渡勇太（仙台一高） 村上成信（仙台一高）
氏家幹子（宮城一女） 小原千春（宮城一女）
櫻井智紗（宮城学院） 千葉めぐみ（宮城学院）
佐々木萌（名取北高校） 紺野恵利（名取北高校）
高橋由紀（名取北高校）

司会進行 「仙台っ子」編集部 早川美喜子

みなさんはそれぞれに志望校があつて高校を選んだわけだけれど、共学から別学への変化に戸惑いはなかつたですか？

樋渡 最初の一週間は正直辛かつた。朝行つて「おはよう」と言つても、返ってくるのが全然さわやかな声じゃなくて（笑）。道で女子高生とすれ違つと目で追つてしまつたり（笑）。慣れてくると一高がよくなつたけど。

どうしてよくなつたの？

樋渡 中学のときは先生が用意したのをやつていれぱすんだんです。高校になつたら全部やらせてもらえる。大変だけれど、高校生活でしか味わえないことだと思ひます。

でも女の子がいればよかつたと思ひない？

樋渡 思ひないですね。男だけだと遠慮がないし、格好は気にしなくてすむし。

森 おれはショックはなかつたな。中学のときから女の子に相手にされていなかつたもんね（笑）。外見で判



樋渡くん

森くん



断するような人がいなくなつたから、かえつてよかつた。

高橋 うち共学だけれど、女子クラスって、女子の割合が多いクラスがあるんです。初めそのクラスになりたくなくて。2年で女子クラスになって良さを感じてくると、男子といっしょのクラスになりたくないと思つたりして。どつちも体験してみても、あまり付き合ひに変化はないと思ひます。

相澤 共学でも別学でも、適応能力があるから慣れちゃう。

森 別学か共学かで学校を選ぶ生徒はあまりいないと思ひますね。

樋渡 そうそう。それはオマケだよな。

小原 別学・共学の話が出ると、別学校へ行つていた人は男女共同参画ができなくなる、みたいなことを言う人がいますけど、すごい昔の発想。今の高校生はそんなふうには捕らえてないです。女としての自分じや

なくて、自分としての自分みたいなのがわかったのが、別学のメリットだと思えます。

宮城県の公立高校の統廃合や共学化が問題になっていますね。

相澤 テレビでやっていったんだけど、この10年で生徒数が6000人減って、そうすると学級数が115減るって。でも、たとえば今40人学級じゃないですか。40人で8クラスだったら320人ですけど、30人、20人に減らせば学校として維持できる。ほくのクラスは40人学級ですけど、教科担任の先生は生徒の名前を間違ったりする。覚えきれないんです。以前中学校で取材したことがあったんですが、先生にインタビューしたとき「きつい」と言っていました。20人、30人と数が減れば、生徒と接する機会が増えて細かい問題だってフォローできるの、って。

氏家 どうして教育のところからお金を削っていくの、って思います。学校の数を減らせばお金がかからない、とかね。お金のことと言えば、今学校で経費削減で無駄な電気は消せて言われているんですよ。

相澤 うちもそう。

小原 2本あったトイレの蛍光灯が1本になつて、薄暗くてコワイし。部活だつ

て夜7時以降は電気も暖房も消されちゃうから今年からできなくなつて。

日曜、試験休みと全部使って、試験直前まで部活しないといけないから、ゆとりがなくなつてきている。



氏家さん

千葉 共学化に反対の人が、署名を集めて行動したって聞いたんだけど。

相澤 ぼくたち、やりました。

氏家 ひどい結果だったよね。「高校生の意見も聞きましようね」みたいな軽い扱われ方で。

千葉さん



相澤

知事に出したら「あなた方の活動はわかりました。

けど共学化も大事だよ」

みたいな言い方で、話を

そらされた感じでした。

高橋 自分が行きたいと思

って高校を選んだのに、おと

なの都合で振り回されてるみ

たい。

佐々木 選択肢は多いほうがいいのに。男子校、女子高に行きたい人だっている。

別学は私立高校にまかせては、という声

もあるようだけど。

氏家 私立だけに頼っていいものなんでしょうが。教育は国や地方公共団体がきちんと考えて実施していくべきものじゃないですか。

相澤 私立に対する見方って、受験に関しては「公立のすべり止め」みたいに感じている部分があると思う。それは公立に受験が1回しかないからだよね。

小原さん



村上 ぼくは学区制をやめて欲しい。宮城県の高校が全国に占める地位を向上させて欲しいんです。別学をなくすメリットはないじゃないですか。学区制をなく

して県内最強の高校を作るべきです。

氏家 あんまりどこへでも行けるとなると、学校間序列ができる心配があるんじゃない？

相澤 でも学区制をはずして受験の

日程をずらせば、公立2回受けられる。それと、ぼくが言っているのは、一高を残したいってことじゃないんです。なくなってもいい。いい学校が残って欲しいってことです。

いい学校というのは？

相澤 一高って面白いんですよ。何かやりたければ先生の手を借りずに自分たちで立ち上がって、実現できる学校なんです。それを後輩たちにも味わって欲しい。



氏家 学校にはそれぞれの歴史があって、一女なら制服廃止とか、いろんなことがあったわけです。その歴史の上で私たちがひとつずつ積み上げていこうとしているのに、すべて壊してしまっても、納得できないんです。

相澤 別学もいいところもあるし、悪いところもある。共学だってそうなんだよ。県の教育委員会は、共学校は理想郷、ユートピアのように考えているんじゃないのかな。

氏家 もっと高校を個性のあるものと見てくれればいいんです。選択肢って意味から言えば、私は仙台市内に住んでいるから別



村上くん

学・共学って選べますけど、片方しかなかったら選べないじゃないですか。

高橋 一高の文化祭に行ったら、おとなの姿はなくて全部生徒たちでやってる。すっげー、って思っちゃった。で、自分の名取北高はどうなんだろうって。

相澤 やる気のあるやつが集まって、広告取ったりして運営してるんですよ。

森 動かしてるのは百年の歴史(笑)。

氏家 宮城野高校へ行ってる友だちがいるんだけど、サークル活動だけで部活がないんです。だから高校生のコンクールに出られなくて、一般の部に参加してる。やっぱりある程度、自分たちで活動できる場を学校側が用意して欲しい。勉強以外にも自分を出す場を積極的に設けて欲しいと思う。

樋渡 うちの学校で空手部作るうとして、人数、顧問と条件がそろったのに、結局ダメだったことがあります。

相澤 それは戦わなかったからだよ。一高には生徒会や学友会はないんです。かわりに発起人制度というのがあって、たとえば文化祭やりたいと思ったら、その人たちが黒板に名前を書いていく。そうしたら、議長団を通して生徒総会で学校全員の承認を得るんです。

森 だから発起しなれば何も無い。文化祭がなかった年もあったし。

千葉 うわー、カッコいいなあ。

相澤 運動会もそうだし、共学化反対委員会もそうや

高橋さん





相澤くん

るんだろっ？
樋渡 無関心じゃないのかな。
佐々木 私はここへ来るまではあまり考えてなかったんだけど、話を聞いてるうちに自分の考えがはっきりしてきた。
森 ふだん考えてない人でも、ほかの高校生の刺激を受けて考えるようになる、ということだよ。

氏家

そういう機会を増やしたいから、学校の中で「自主自立を考える会」ってやっただんです。でもみんな忙しくて、あんまり集まらないんですよ。時間も余裕も場所も。
相澤 たしかに時間がないというの



佐々木さん

って作った。やった以上は責任負わなくちゃいけませんけど。
佐々木 そういう自主的に考える人、うちの学校には少ないよね。学祭の実行委員になっても全部決まっちゃっていて、あつというまに終わっちゃった（笑）。
小原 実際の高校をあまり見に来ないおとなが魅力があると考えていても、実際とか離れたものになっちゃう。高校生の意見をきちんと聞いてほしいと思います。
氏家 学校にいるのは生徒や先生で、文化祭で少々やかましくても我慢してくれる近所の人、生徒の父兄。そういう人たちの声を全然聞いていない。
小原 こっちが何か意見を言ううとすると、悪いほうへ取られてしまうし。
ほかの高校生はどう思っているんだろっ？



櫻井さん

は可哀想ですよ。うちは「共学反対委員会」だけで4時間みんな話合いました。それで設立まで持った。

佐々木 けど偉いよね。

私たちがそんなことしたら、冷たい目で見られる。

森 学校がある程度そういう環境を用意してくれているから動けるってことはありますね。

相澤 発起人制度は一高のいいところで、共学化になったとしてもその制度は残してほしいと思うくらい好きなんです。

樋渡 それも、どうなるかだよ。

氏家 教育委員会で用意してるプランはどの学校も同じに見えるんです。だれでも平等に教育を受けられるようにと考えてるみたいなんですけど、みんなが同じような学校に通うってことじゃなく、みんなが学校へ行きたいと思う権利、学ぶ権利を平等に与えて欲しい。勉強は嫌でも学校は行きたいと思えるように。

佐々木 学校、楽しい？

一同 楽しい。

佐々木 面白くないってやめる人もいるけど。

高橋 みんな自分の好きなことには熱いよね。部活は活発。好きなことがあれば。

相澤 一高では共学化に関してのセミナーを11月に開く予定です。まだハッキリは決まっていないんですが、教育委員会、高教組からもパネラーを招きたいと思っています。どうぞ来て下さい。

う 思 う

人格形成の大局に立とう



長谷川公一さん

東北大学文学部教授(社会学)

「みやぎ男女共同参画推進プラン」

(1998年)策定委員 46歳

「伝統」や「独自の校風」の尊重、「選択の自由」という美名のもとに仙台市内の有力進学校は別学のままだにしておこうという議論がある。先輩などの抵抗も強いし、格好の「落とし所」と見る向きもある。しかしそうすると、「男女別学」はエリート高校の証であり、偏差値の高い生徒たちの「特権」(特別損失)というゆがんだ形になる。大学の中でも、市内の有力女子校出身者は「おほし」的だという声を耳にする。実力も素質もあるのに、「野心」や「闘争心」が足りずに伸び悩む女子校出身者がいる。狭い「母校愛」によって、二一世紀の宮城県の人間形成・人材育成の大局を誤らないでほしい。

押しつけ決めつけはご法度



菅野充騎さん
会社役員 57歳

学級崩壊の嵐の中で、中学教育の花をしっかりと咲かせている学校が二校あります。仙台一中と白石南中です。この両校に共通することは、自分達の校則を生徒自身が主役を演じながら、まともな上げ、取り決めたことです。自主自立が民主主義社会を構成する一人一人を育てる上での精神的土台であることは確かですが、その自主自立を内面的なものに止めるところに今日の教育荒廃の病巣が潜んでいます。自立させるにはそれになじむ環境を創造させていかねばなりません。その訓練こそが教育の心臓部です。押し付けや、決めつけは御法度です。

既成概念を排除した平等な議論を



石川綾一さん

仙台三高OB 32歳

今回の「画一的共学化」で問題と感ずるのは、県教委も含む、一部の推進派が前段階として、「別学は共学よりも劣っている」と考えていることにある。本場に「未来の高校生のため」に行うのであれば、別学・共学によらず、同じ土俵に乗せ、何が問題であるのか、魅力的な学校とはどうであるのかと考えることを、既成概念無しに考えるべきではないかと思

う。「別学は劣っている」と考えるのは、別学在校生、卒業生に対する侮辱である。自分達のイメージを押し付けても、魅力ある高校は作れないだろう。

おらほの大学



五十嵐悟さん

燃える歯医者さん 学区制一期生

宮城県の進学率が低いのは、「大学行っても何にもなんね」という偏見が強いことも一因。特に郡部は身近に大学がないだけに、進学を希望する生徒達は周囲の無理解に大変苦勞するそう。ならば、せっかく統廃合で高校施設が空くのだから、そこに宮城大学の分校を持つっちゃおう。目の前に進学目標があれば、生徒の張り合いも出ると言うもの。社会人向けの講座も開けば、高校の開放講座と違って大人の面子も立つ。そうすれば教育に関する啓蒙になるのではないかな?

予算はアセルヤグ デイを民間に売って...

こは私



相沢裕行さん

教育 バンコン関連会社役員
宮城教育フォーラム代表 52歳

これが開かれた県政か？

高校再編、一律共学化を巡っての県の進め方は、独善とも言える一方的なものと感じます。男女一緒が自然といった曖昧な観念での一律共学化、そしてまた地域経済や文化への深い検討もない中で高校再編。

これらの大変重要な問題が、恣意的なアンケート、意見を聞くふりの説明会、アリバイ造りの有識者会議、呆れるほどの古臭い官僚主義的手法で進められています。浅野知事が標榜する「開かれた県政」とはこのような物なのでしょうか。本当の意味での民主主義を表現してほしいです。



芳賀宣明さん

宮城県の高校の共学化を考える会
27歳

もっと議論を！

この問題に関して、まだまだ議論が深まっていないように思います。推進を唱える方々、疑問を持つ方々との認識の溝が浮き彫りになるばかりで埋まる気配は見えません。特に教育委員会の方々には、もっと県民の前に出て、議論の過程から結論に至る筋道を説明して、じっくり議論をしていただきたいものです。宮城県の教育を、過去から現在に至るまで色々な面から検討し、得るものと失うもの大きさを誰もが解るような形できちんと比較した上で、皆が納得できるようなプロセスで進めていただきたいものです。宮城県の将来を左右する政策なのですから。



藤田紀子さん

弁護士 54歳

私は30数年前の一女卒

中学時代ひそかに想っていた男の顔もみることができず、秋の文化祭とか、一高二高の野球試合などの行事の時、彼に会えるかなと楽しみに行ってみたら、いつも空振りに終わった。

唯一英語の進学塾が男女共学で、ここで新たに想いを寄せる男がいて、私は本来の目的は忘れて塾に通っていた。

恋心が芽ばえる頃に男女を引き裂くことは酷である。別々の学校に行っても交際は可能ではないかと主張する人は、十代の恥じらいや奥床しさを解さない人である。高校を楽しく、張り合いを持って勉強する場にするため、共学賛成。



若生 英俊さん

行政書士 50歳

人間性と実力こそ大事

学校の先生ほど具体的に描ける職業はない。先生になろうとする人は「こういう先生になりたい」と明確な意志と目的を持って難関を突破し夢を実現させる。しかし、現実には初心を貫くことが案外難しく、初心を見失わせる日常に孤立感を深める。また、知識の多寡や途中の努力より結果に評価を置き過ぎるなど本来の使命を見失う環境を背にしている。先生の最も中核の仕事は生徒を育て、人格を磨く事にある。学歴を過大評価する時代は終わりにし、人間性と実力が正当に評価される時代が求められる。

先生と生徒が希望を語れる学校であってほしい。